

子どもは“地域の宝”！…朝のあいさつ運動

凄い速さで走り去る自転車、勢いよく曲がってくる車…。

5年前、子ども達の通学の風景の見守りを始めるまでは、こんなに危ない光景が通学路で毎日のように起こっていることすら知りませんでした。「まずは自分が動いてみよう！」と感じ、半ば義務感から生じたような始まりでしたが、今は違います。

昨日まで素通りしていた子が急に後ろから抱きついてきてくれたり、名前を尋ねてきてくれたり、お父さんのお誕生日だと嬉しそうに教えてくれたり、お母さんの愚痴を聴いては母心を代弁してみたり、暑い日は日傘の陰を分けっこして、寒い日は手を温めあったりも…。知れば知るほど可愛いなと思います。

近づくほどに、この笑顔に毎日逢えますようにと願いながら、今日も元気を分けてもらいに通っています。



見守り活動中の 和田 季子さん

伝統文化の継承 × 子どもの居場所づくり



2002年6月に南武庫之荘地区で結成された太鼓集団「鼓舞童(こぶどう)」は、人権問題関連のイベントや学校公演に積極的に参加し、少しでも多くの方々に部落産業の伝統文化を正しく理解してもらえるよう訴え続けています。また、地域総合センター南武庫之荘では、小学生への指導も行っており、子ども達の居場所づくりや地域での子育てを実践しています。メンバーには武庫南小学校の卒業生も多数在籍しています。

家庭を学校 地域をつなぐ

—武庫南小学校区の実践—
☆人権教育は、隠れたカリキュラム☆

赤ちゃん先生… 命の尊さや自分の成長をみつめる



子どもたちは、乳幼児とふれあい、お母さんの体験談を聴いて、「命の大切さ」を実感します。それは『自己肯定感』を高めるとともに、思いやりに満ちた人間関係を築く力へとつながっていきます。

そして、自分自身の成長をふり返り、これまでの生活や成長を支えてくれた家族や周囲の人たちに「感謝の気持ち」を抱きます。

赤ちゃんとお母さんは地域から参加していただいています。地域の子育て支援にもつながる大切な体験学習だと考えています。



…人権の母… 畑 順子 先生

心をととのえる…学習環境づくり

「武庫南“愛”」

一人ひとり手のぬくもりが違うように、毎朝の表情も異なる武庫南っ子たち。学校の近くに住む子もいれば、30分以上かけてたどり着く子もいます。昨日よりもさえないあいさつの子、校庭にひびく元気な声の子など、約650名の子どもを門の前で毎日、見続けてきました。

私を過ぎれば、自慢の先生たちがいつも教室でこの子たちを出迎えてくれます。「1分でも1秒でもはやく登校して、友だちと遊び、授業を通して賢くなってほしい」と、雨の日も風の日も、夏の暑い日も…立ち続けてきました。

正門前で交わすあいさつと手のぬくもりが、武庫南っ子たちの心に“エール”となって伝わり、活気に満ちた学校生活になることを日々、願いながら…。



加谷 肇 校長先生

言葉をととのえる…互いに尊重し合う言語環境づくり

人権教育は『隠れたカリキュラム』だからこそ、人権標語や学級目標などを掲示して、子どもの“意識の俎上”に載せる努力をします。そして、子どもの人権感覚は、子ども同士の関係性の中で育まれます。子どもたちの生活すべてが学習の場です。

教室では“どの子もみんな平等”。互いに尊重し合える環境、一人ひとりの「居場所」になるようなクラスづくりをしています。

また、男女共同参画の素地となる心が育つように、男女ともに「さん」をつけて呼び合うなど、言葉をととのえることを大切にしています。

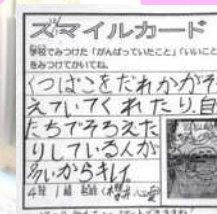


“人権教育(視点)”のない授業に、素晴らしい授業はない!

かなめ
「道徳教育は“要”であり、人権教育は“人格の完成への基盤”」



身の周りをととのえる…学校環境づくり



スマイルカードに書いて…スマイル・ボックスへ

毎日放課後に、全クラスのくつ箱の写真を撮り、教室に掲示することで、子どもたちに還してきました。それを見た子どもたちが、スマイルカードに書いて、「スマイル・ボックス(人権週間中)」に! 集まった250枚を給食の時間に放送しました。



「どんなにやんちゃで、あわてて走って帰る子どもでも、くつをそろえて帰るようになる」と、信じ続けて、毎日放課後にくつを整とん!